

Japanese Society

Hip

2023

9

日本股関節学会ニュースレター

第9号

能（宝生流）と日本舞踊（花柳流）

奥深い伝統芸能の魅力 **Interview**

第49回学術集会を開催して

第50回学術集会のご案内

第2回日本股関節学会 骨切りセミナー

第9回日本股関節学会 教育研修セミナーのご案内

第33回大正 Award 受賞者

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2023/9
第9号

3	目次
5	理事長ご挨拶
7	第49回日本股関節学会学術集会を開催させて頂いて
8	第50回日本股関節学会学術集会開催にあたり
10	特別インタビュー
13	日本股関節学会海外研修制度帰朝報告
14	第2回日本股関節学会 骨切りセミナー
15	第4回日本股関節学会 教育研修セミナー開催して(アドバンスコース)
16	第1回日本股関節学会 FAI 関節唇カタバーセミナー
17	第9回日本股関節学会教育研修セミナーご案内(ベーシックコース)
18	第33回大正 Award 最優秀賞・優秀賞
20	日本股関節学会役員一覧①
22	日本股関節学会役員一覧② 新評議員・学術評議員よりご挨拶
24	入会案内
26	編集後記



日本股関節学会ニュースレター

JS Hip

日本股関節学会ニュースレター（第9号）理事長ご挨拶

日本股関節学会 理事長 菅野 伸彦

川西市立総合医療センター 人工関節センター長

国際人材育成と海外発信力強化で 股関節学の進歩と普及を目指し、 人々の健康と福祉に貢献します

まず初めに、本学会が多くの会員の皆様に支えられ、継続的に発展していることを心から感謝いたします。昨年学術集会から、杉山肇先生より理事長を引き継ぎました。第9号ニュースレターの発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本学会は、2010年に理事長制が導入され、久保俊一初代理事長のもとで学会としての体制が整い、2018年9月に一般社団法人に移行いたしました。2019年10月から、二代目理事長に杉山肇先生が就任され、コロナ禍の影響が大きかったにも関わらず、学会セミナーのアドバンスコース、骨切りや股関節鏡のカダバーセミナーを開始され、学会の教育プログラム充実に貢献されたことに心より御礼を申し上げます。新執行部として、山本謙吾先生、稲葉裕先生、山本卓明先生の3名の副理事長体制で、学会がさらに発展するよう努めていきたいと存じます。

変形性股関節症の診療ガイドラインも2006年の第1版、2016年に第2版のあとを受けて、第3版の改定作業中で、今年パブリックコメントを募集予定です。2019年発刊の特異性大腿骨頭壊死症診療ガイドラインも、次の改定に向けて準備しています。学問体系のもととなる教科書「股関節学」を当学会として来年出版予定です。学会誌として日本語の「Hip Joint (日本股関節学会誌)」を刊行していますが、海外への発信力を高めるため、今年から日本人工関節学会とともに、英文雑誌「Journal of Joint Surgery and Research」(ISSN2949-7051)を刊行いたしました。そのAims and scopeを“an official Open Access journal of the Japanese Hip Society and The Japanese Society for Replacement Arthroplasty, and is an international, peer-reviewed, multidisciplinary journal publishing clinical and basic research of the major joints such as hip, knee, ankle, shoulder, and elbow”としています。ご活用いただければと思います。

昨年の第49回学術集会は、高木理彰会長により山形市で開催されました。現地参加者は1600名、オンデマンド参加も含め1800名を超える学術集会となりました。コロナ禍の影響の残る中、盛会に運営していただいた高木先生をはじめ山形大学の先生方には心より御礼申し上げます。学術集会に先立ち開催された研修セミナー（ベーシックコース）も現地とオンラインの2つの形式で行われ、149名（現地43名オンデマンド106名）の参加をいただき、現地参加者の満足度が高く、今後も現地での開催を中心に考えていきたいと思っています。

昨年度の大変ご好評いただいた研修セミナー（アドバンスコース）、骨切りセミナー（カダバー）、FAI関節唇セミナー（カタバー）の様子が本レターにも報告されていますので、ご一読いただければと思います。今年度もベーシックコースとともに3つの実習コースを計画しております。

今回のニュースレターでは、再開した海外研修制度の4期生に当たる2名の先生方の研修内容が報告されております。瀬川裕子先生はフランスで小児股関節、原大介先生はアメリカで成人股関節の多くの手術を見学され、触発された経験の喜びと感謝の気持ちを報告されております。また、昨年の大正Awardの最優秀賞を受賞した北村健二先生、優秀賞を受賞した三浦道先生の受賞コメントも掲載されております。本年度も両制度への多くのご応募をお待ちしております。

今秋、10月27日、28日には第50回の学術集会が中島康晴会長により福岡市で開催されます。第50回記念シンポジウム・講演など、沢山の興味深いプログラムが企画されています。多くの先生方と学術集会でお会いでき、学問・スポーツ・食欲の秋を皆様で楽しめることを期待しております。今後も引き続き日本股関節学会へのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第49回日本股関節学会学術集会を開催させて頂いて

日本股関節学会
ニュースレター



会長 高木 理彰

山形大学医学部 整形外科科学講座 教授

第49回日本股関節学会学術集会を2022年10月28日(金曜日)、29日(土曜日)、山形市で開催させて頂きました。「嚙矢濫觴」のテーマのもと、股関節学のはじまりや基本を再認識し、歴史的な治療法から最先端の手術療法、保存療法、

さらに治療を支える基礎医学、社会医学にも視野を広げながら、様々な討論を通してさらなる高みを目指すマイルストーンとなるような学術集会を企画しました。厳しいコロナ禍の最中、幸いにも感染の波の狭間となり、当日も晩秋の澄み渡る青空に恵まれました。現地参加者は1600名を超え、オンデマンド参加も含めると1800名を超える学術集会となりました。大勢の皆様のお力添えで無事終了することができました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

学術集会はオンサイトのほか、オンデマンドでも参加できるように致しました。杉山肇先生の理事長メッセージ、久保俊一先生の特別講演をはじめ6つの海外招待講演、2つの特別セミナー、教育講演16題、シンポジウム10テーマ、パネルディスカッション7テーマ、20のランチョン・イブニングセミナーも企画しました。一般演題524題、ポスター演題246題、Late-Brakingポスター10題をあわせると実に935の演題数となりました。また市



開会式後に撮影した記念写真

民公開型の文化講演会も企画し、NPO法人森は海の恋人の畠山重篤理事長、国立遺伝学研究所の斎藤成也特任教授にご講演頂き大盛況でした。前日には第8回日本股関節学会教育研修セミナーベーシックコースとアドバンスコースが開催され、第2日目の夕方には股オステオミーを語る会も行われました。おかげをもちまして実に盛りだくさんの内容となりました。

学会期間中に腐心したのは、やはり感染対策でした。ご不便をおかけしたそのような状況でも、大勢の皆様が集い、意見を交わし、旧交をあたためる光景は、本来の学術集会の姿を垣間見た思いがしました。3年を超える厳しいコロナ禍の中、第47回会長須藤啓広先生、第48回会長川手健次先生はじめ、大勢の皆様によって繋がれた学術集会の歴史と、そのご努力にあらためて敬意を表したいと思います。第50回の記念すべき学術集会は中島康晴先生のもと福岡で開催されます。日本股関節学会が益々発展することを願ってやみません。

開催告知

第50回日本股関節学会学術集会開催にあたり

2023年10月27日(金)・28日(土)に開催する第50回日本股関節学会学術集会について



会長 中島 康晴

九州大学大学院医学研究院 整形外科教室 教授

このたび、第50回日本股関節学会学術集会を2023年10月27日・28日、福岡市にて開催させていただきます。本学術集会は1974年(昭和49年)に日本股関節研究会としては始まり、1992年(平成4年)の第19回から日本股関節学会に名称を変更して開催されるようになりました。第50回を迎える記念すべき学術集会を主催させていただき、大変光栄に存じておりますとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

本学術集会のテーマは「股関節道 Spirit of Hip Surgeon」とさせていただきます。今や、股関節外科医が執刀する手術の多くは人工股関節全置換術であり、この優れた手術が股関節外科医の強みであることは言うまでもありません。一方で、我が国には先人が作り上げ脈々と受け継がれてきた関節温存手術があり、日本股関節学会はそれを継承し、発展させる使命があります。また、近年では股関節鏡視下手術の手技も確立されつつあり、股関節外科の新たな領域として発展しています。若い先生方には、人工関節だけではない股関節外科医としての幅広い知識と技術を身に付けて、将来の股関節学を担ってほしいという気持ちを込め、今回のテーマとさせていただきます。

本学術集会の講演・シンポジウムの一覧を次ページに

示します。まず半世紀にわたる歴史を振り返る第50回記念シンポジウム・講演を企画しました。次にキーワードとして「自然経過」「男女共同参画」「患者参加」「CAOS」「AI」などをリストアップし、それらに関連したプログラムを企画し、ベテランから中堅、そして時代を担う若手まで、それぞれ興味をもって参加して頂けるように致しました。海外招待講演では、European Hip SocietyのPresidentであるKlaus Siebenrock先生には関節温存手術、William J. Maloney先生には人工股関節置換術、Marc Safran先生には股関節鏡視下手術についてお話いただける予定です。またHip Society PresidentのWilliam Jiranek先生、Korean Hip Society PresidentのKee Haeng Lee先生にもご講演賜ります。

秋深まる10月の福岡は、気候も良く食べ物も美味しい季節です。福岡では新鮮な海の幸、山の幸と九州各地の様々な食が揃っています。ぜひ、本学術集会にご参加頂き、発表や聴講の合間には福岡の秋の味覚をお楽しみ頂けたらと存じます。

本学術集会が実り多い学会となりますよう、教室をあげて鋭意準備を進めて参る所存です。多数の先生方と学会場でお会いできることを楽しみにしております。



第50回日本股関節学会学術集会

テーマ	股関節道 Spirit of Hip Surgeon
会期	2023年10月27日(金)・28日(土)
会場	ヒルトン福岡シーホーク 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3
会長	中島 康晴 (九州大学大学院医学研究院 整形外科学教室 教授)



おもなプログラム

1. 50年記念シンポジウム

- 1) 日本で生まれた骨切り術：誕生から未来へ
- 2) 日本で開発された THA：基礎から臨床まで
- 1) この股関節どうなる？ OA と ONFH の自然経過
- 2) 股関節領域における AI 研究
- 3) 日本小児股関節研究会 combined session：寛骨臼形成不全に対する治療戦略 — 幼児期から思春期まで —
- 4) PAO の手技と進化

2. シンポジウム

- 5) 女性股関節外科医のキャリア形成—現状と未来像—
- 6) 変形性股関節症診療ガイドライン改定に向けて
- 7) 患者さんと考える THA の至適タイミング
- 8) 寛骨臼骨折に対する一期的 THA
- 9) インプラント周囲骨折のリスクマネジメントと対応
- 10) 大腿骨頭壊死症の圧潰メカニズムに迫る

3. 教育研修講演

- 1) 股関節領域におけるエコーの活用
- 2) 関節鏡視下手術の基礎知識
- 3) PJI up-to-date
- 4) 周術期疼痛対策最前線
- 5) 大腿骨近位部骨折 整復固定のコツ
- 6) Spinopelvic alignment up-to-date
- 7) 軟部組織温存 THA のコツ
- 8) 見逃さない！ 小児股関節疾患の鑑別診断
- 9) THA 入院期間短縮の成果と限界
- 10) ナビに頼らない THA のコツ
- 11) CAOS up-to-date
- 12) 変形性股関節症の疫学

4. 海外招待講演

- 1) 「Hip Preservation(仮)」
Klaus Siebenrock MD University Hospital Bern, Switzerland, President of the European Hip Society
- 2) 「Trends in total hip arthroplasty in the United States」
William J. Maloney MD, Stanford University USA
- 3) 「Hip Microinstability - Not Just In Dysplastic Hips」
Marc Safran MD, Stanford University USA
- 4) 「THA 関連」
William Jiranek MD, Duke University USA, President of the Hip Society
- 5) 「Hip Arthroplasty for Intertrochanteric Fracture」
Kee Haeng Lee MD, Bucheon St. Mary's Hospital, Korea, President of the Korean Hip Society



金森 シテ方宝生流能楽師 良充



能は動きを削り 日本舞踊は流れを紡ぐ 奥深い伝統芸能の魅力

能と日本舞踊、同じ日本の伝統芸能でありながら、全く異なる表現の世界で活躍する二人の若手芸術家夫妻から、股関節学会会員に向けたメッセージを伺いました。

能、日本舞踊、そして パートナーとの出会い

金森良充●自意識が芽生える前から能の世界を歩み始め、5歳で初舞台を踏みました。ただ中学時代は声変わりの時期と重なるので、能から離れて過ごし、卒業するまでに能を一生の仕事にするか否かを決めるように親に言われました。スポーツは好きだったので、中学校の3年間はバスケット部に入って部活に没頭し、中学卒業時に能を一生の仕事にしようと決心して、高校に入ってゼロからのスタート、つまり下積み生活が始まりました。東京藝大に進んだのは、講師の先生方が現役の能楽師で実技系のカリキュラムが充実し、学友からの刺激で視野が広がると考えたからです。お陰で妻とも出会うことができました(笑)。

花柳吉史加●私が大学1年生で主人(良充さん)が2年生の時に、大学の「仕舞」の授業で校内の能楽堂に行く機会があり、そこで知り合いました(笑)。私は宮崎県で生まれて母が花柳流の師範でしたので、2歳から日本舞踊を始めました。以前から能は好きだっ



金森良充(かなもり・よしみつ)シテ方宝生流能楽師。●1984年東京都港区生まれ。東京藝術大学音楽部邦楽科卒。金森秀祥(シテ方宝生流)の長男。1988年入門。19代宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。初舞台は「鞍馬天狗」花見(1989年)。初シテ「籠」(2008年)。「石橋」(2019年)、「道成寺」(2021年)を披露。能楽協会会員。



花柳

日本舞踊家 (花柳流)

吉史加

たので、藝大の授業で能を学ぶ機会に恵まれたことはとても幸運でした。日本舞踊はお役や情景を体を使って踊ることで表現する芸術なので、能を学んでいるときにはその癖を取り去るのが大変でした。能は動きに「型」があり、日本舞踊にも型はあります。型と型の間(あいだ)を滑らかに繋げるために品(しな)をつけるのですが、お仕舞を習ったときにはこの「品」を作らないようにと教えていただきました。この型と型を繋ぐ動きが踊りだと私は思っていますので、この点からも、舞と踊りの違いを感じます。

金森良充●私も藝大時代に日本舞踊の授業があって、AからBの動きに移る「間」をつなぐための「品」を作ることがとても難しく固まってしまったことがありました(笑)。同じ日本の伝統芸能でもこれほどまでに違うものと体感しました。また能は感情表現をするにも極力無駄な動きをせずに、喜怒哀楽を表現するので、ものすごく体幹を使います。中でも宝生流はより少ない動きで物語の世界を重厚に表現するのが特色で、見た目が地味な分だけ表現が難しい上に、「謡宝生(うたいほうしょう)」と言われるとおり、謡に独特の細やかな節回しが必要とされます。その一方で能にも「宙返り」や「仏倒レ」という後ろに反り返ってそのまま背中からバタッと倒れる荒技や「飛び上がり臥下」という、空中で胡座の姿勢になり、そのまま着地するというアクロバティックな動きがあり、全身の力を込めて動きますが決してそれを悟られないように努めます。股関節にもかなり負担をかけるので、舞台の前にはしっかりとストレッチをしています。

花柳吉史加●主人(良充さん)が普段着で能の動きをする姿を初めて見たときに、「筋肉の付き方が全く違う!」とビックリしました。体表の筋肉は大きく見えないのに身体の奥深くにある深層筋が骨をしっかり支えて、ゆっくりした動きを美しく重厚に見せているような印象を持ちました。

「正座で2時間」の後に来る「痛みの向こう側」

金森良充●能では2時間正座をしたまま…ということが珍しくなく、能楽師は皆、「痛みの向こう側」を知っています(笑)。具体的には正座をすると最初は痛みを感じ、次に痺れが来て、最後には



花柳吉史加(はなやぎ・きちふみか) ●宮崎県出身。2歳より母に手ほどきを受け日本舞踊を始める。東京芸術大学音楽学部邦楽科日本舞踊専攻卒業。大学卒業と同時に、花柳流専門部師範を許される。コンクール受賞や国内外での公演出演、東京工学院専門学校講師を経て、現在は文化庁事業にも多く携わる。日本舞踊家集団「藝〇座」に所属。



波に流されている様子を表現した動き



首を切り落とされるという様子を表現した動き

お酒を注ぐ動き



お酌をされてお酒を飲む動き



ご主人の趣味は奥様の手料理を食べること、奥様はご主人に手料理を作ってほめてもらうことがストレス解消になるそう。「妻の一期一会の手料理がとにかくおいしいです」…ご馳走様でした！

感覚がなくなります。しかし2時間も正座をしていると、感覚がなくなった後、さらに激しい痛みで襲われて汗腺が開いて気を失いそうになります。このように能舞台上で体に無理をさせているので、その後はしっかり体をほぐすようにメンテナンスをします。舞台の後に整体の先生に診てもらおうと、「全身が固まっていますね…」と驚かれます。ぎっくり腰が怖いので、顔を洗う際にも、洗面台の前でスクワットをするように腰を曲げずに膝を曲げて重心を下げます。背筋が丸くなるので胡坐もかきません。食べることが趣味なのですが、身体が重くなるとすぐに所作に出るので、太らないように気を使っています。

花柳吉史加◎私も主人と同じ整体の先生にお世話になっているほかに、岩盤浴で体を温めて心と体をほぐします。膝のじん帯を痛めたり、腰痛に悩まされたりしますが、毎日ストレッチをして定期的に整体の先生にお世話になりながら大病にならずに過ごしています。

骨格や筋肉の使い方の分析、ケガ予防のアドバイスを！

金森良充◎整形外科の先生方には、ぜひ能舞台を見ていただき、体の動かし方について、解剖学的に分析していただきたいです。その上で、「この動きをした後はこんなストレッチをしてください」などと医学的なアドバイスがもらえると理想的ですね。過去に実験協力で、マットスキャン上で能の動きをしながら足圧の分析をしたことがあり大変勉強になりました。

花柳吉史加◎着物、畳、正座の文化が日常生活から消えつつあることが、日本人の骨格や筋肉にどんな影響を与えているのか、知りたいですね。私たちは体が仕事道具なので整形外科の先生方に日本舞踊の動きを解剖学的に解析して予防的なメンテナンス法を教えてくださいたいです。ケガをせずになるべく長く自分の体を使って芸術表現をしていくために、今何をすべきか…自分のウィークポイントはどこかについてアドバイスしてください先生がいれば理想的だなと思います。

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告

日本股関節学会
ニュースレター

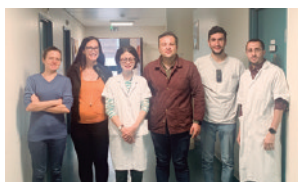


瀬川 裕子 東京医科歯科大学整形外科 助教

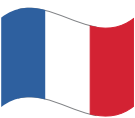
研修先 Hopital Necker Enfants maladies (Paris) Hopital des enfants (Toulouse)

研修期間：2023年5月15日～6月16日

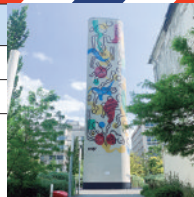
私はフランスの2つの病院での研修機会を与您いただきました。まず初めに訪問したのは、ParisにあるHopital Necker Enfants maladesです。Parisに4つある小児病院の1つで、ヨーロッパでも最大級の小児病院であり、整形外科のスタッフ数は20名を超えていました。2週間の滞在の間に股関節の骨切り術を4件のほか、重度大腿骨頭すべり症に対するModified Dunn Procedure、外傷後の脚長不等に対する髄内釘を用いた大腿骨延長術、骨形成不全症の大腿骨変形に対する矯正骨切り術などを見学できました。エン



Toulouse 小児病院のスタッフと



ジニアと協力してPatient Specific Instrumentationを作成し、複雑な骨切りに臨んでいたのが印象的でした。2つ目はToulouseにあるHopital des enfantsで、Toulouse大学附属の小児病院です。こちらでは外来見学がメインの研修となりましたが、乳児の股関節脱臼に対する保存療法の方法、考え方が日本とは大きく異なることを知り、ところ変われば考え方が変わることを実感しました。どちらの病院でも、カンファレンスで飛び交う早口のフランス語はもちろん理解できませんでしたが、マンツーマンでは英語でコミュニケーションをとることができました。1か月と短い期間でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。



Keith Haring 作 (Necker)



Dr.Nejib Khouri と



原 大介 九州大学病院整形外科 助教

研修先 Washington University in St.Louis

研修期間 2023年6月10日～6月30日

私は約3週間、アメリカ中西部のミズーリ州にあるWashington University in St.Louisで研修させていただき、股関節温存手術でご高名なJohn C. Clohisy先生にお世話になりました。

外来では局所所見を丁寧に、的確に病態を把握しており、大変参考になりました。また、再診の一部はZoomや電話を用いた遠隔診療で創部の写真やX線写真があらかじめカルテに取り込まれていたのが、アメリカならではの印象的でした。

手術では、人工股関節置換術だけでなく、periacetabular osteotomyや股関節鏡手術など多くの関節温存手術をスピーディーかつ正確に施行されており、3週間の研修期間で50件以上の手術を見せていただきました。

仕事後は、ご家族と一緒にセントルイス・カージナルスの試合を見に行かせていただき、その熱狂的な雰囲気で大興奮しました。

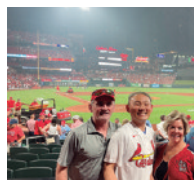
外来、手術症例ともに多く、憧れの先生と直接お話す機会をいただき、大変充実した時間を過ごすことができました。このような機会を与您いただきました杉山肇前理事長、安永裕司監事、菅野伸彦理事長、山本卓明理事に深く御礼申し上げます。



旧裁判所と Gateway Arch



Clohisy 先生と



Clohisy 先生・ご家族と野球観戦



Barnes Jewish Hospital West County



第2回日本股関節学会 骨切りセミナー

日本股関節学会骨切りセミナー担当理事：兼氏 歩（金沢医科大学整形外科 特任教授）



令和5年4月14日（金）、15日（土）に第2回日本股関節学会骨切りセミナーが第1回と同じ名古屋の会場で開催されました。

セミナーの講師は寛骨臼側として Curved Periacetabular Osteotomy (CPO) および Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) を各々、福島 健介先生（北里大学整形外科講師）と原 俊彦先生（飯塚病院整形外科部長）に、大腿骨側として大腿骨頭回転骨切り術を山本 卓明先生（福岡大学整形外科教授）と稲葉 裕先生（横浜市立大学整形外科教授）にお願いしました。

今回は70名と多くの先生方から参加申し込みがあり、日本股関節学会骨切りセミナー実施検討委員会の委員の先生方に各地域での選考をお願いしました。公平性と地域性を考慮し、地域を6ブロックにわけ、ベッドサイド参加、見学参加の割合を申込書者数の比率に従い、各々、東北・北海道2名、3名、関東4名、5名、中部2名、3名、関西1名、1名、中国・四国1名、1名、九州・沖縄2名、3名とさせていただきます。

今回は70名と多くの先生方から参加申し込みがあり、日本股関節学会骨切りセミナー実施検討委員会の委員の先生方に各地域での選考をお願いしました。公平性と地域性を考慮し、地域を6ブロックにわけ、ベッドサイド参加、見学参加の割合を申込書者数の比率に従い、各々、東北・北海道2名、3名、関東4名、5名、中部2名、3名、関西1名、1名、中国・四国1名、1名、九州・沖縄2名、3名とさせていただきます。

セミナーは第1回と同じく前日夕方から講義、翌日に

カダバートレーニングを行いました。ベッドサイド参加の先生方は活発に質問され、実際に自分で行う際のコツや注意点を確認されていました。今回、見学参加の先生方にも術野確認がしやすいようにヘッドセット型のビデオカメラを講師の先生に装着いただきiPadで確認できるように工夫しました。

ご参加いただいた先生方のアンケートでは非常に満足度の高い結果であり、有意義なセミナーになったと思われました。また今回は、自己学習のためということをご同意いただきビデオ撮影を許可させていただきましたのでさらに事後学習しやすくなったと思われま

す。今回多くの先生方が選考に漏れました。このため、第3回は第2回で選考に漏れた先生方で再申請された先生に機会を与えるべく、第2回と全く同じ術式、講師を予定しましたので多くの先生方の応募をお待ちしております。

第3回日本股関節学会骨切りセミナーのご案内

日時：令和6年4月5日（金）・6日（土）

会場：第2回と同じ

術式：CPO, SPO, 大腿骨頭回転骨切り術

講師：福島 健介先生（北里大）、原 俊彦先生（飯塚病院）、
稲葉 裕先生（横浜市大）、山本 卓明先生（福岡大）

第4回日本股関節学会 教育セミナーを開催して(アドバンスコース)

日本股関節学会
ニュースレター

担当理事：上島 圭一郎 (がくさい病院)・加谷 光規 (加谷整形外科スポーツクリニック)

コロナ感染症の影響を受けて2年続けて開催を延期していた第2回日本股関節学会教育セミナー(アドバンスコース)を2022年4月17日に京都市(オークラホテル京都)で開催いたしました。アドバンスコースは関節鏡コースとエコーコースの2コースがあり、午前中に座学講習、午後から実技講習を実施しました。

セミナー当日はコロナ感染状況の影響により若干名のキャンセルがありましたが、関節鏡コース20名、エコーコース31名の先生方に全国から参加して頂きました。

座学講師、実技インストラクターとして全国から多くの先生方にもご協力を頂き、大変盛況な中、参加された先生方も大変熱心に講習に取り組んでおられました。

関節鏡コースはdry modelを使用した講習でしたが、股関節鏡の基礎から細かなテクニックに関するところまで講師の先生方が丁寧に指導されていました。アドバンスコースの受講は関節鏡技術認定の申請の際に必須となっていますので、受講希望者も多く、受講申し込み開

始から間もなく予定参加枠が埋まるような状況でした。

エコーコースでは、受講者の先生方に互いに被検者役になって頂き、講師の先生方から股関節と周囲組織の描出法、使用機種や使用プローブによって得られる画像の違いなど学んで頂けたと思います。また、両コースとも同一会場で実技講習を行いましたので、それぞれのコースを選択された先生方も空いた時間で他のコースの様子も見学することはできかと思えます。

こうした実技講習をできるだけ多く開催して、関節鏡やエコーの利用に対する垣根を低くし、正確な知識や技術が広まることで学会員の皆さまの臨床における診断・治療技術の向上に繋がることを願っています。

最後にセミナー開催に多大なご協力を頂いた講師の先生方、関連企業の皆さまにこの場を借りて御礼を申し上げます。第3回も2023年4月に名古屋で開催予定にしています。内容も少しずつ見直ししながら、開催していきたいと思っております。学会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

開会のあいさつ	高木 理彰 (日本股関節学会 教育担当)
理事長挨拶	菅野 伸彦 (日本股関節学会 理事長)
9:00~10:00 共通講義 座長：上島 圭一郎 (京都地域医療学際研究所 がくさい病院)	
1) 超音波エコー, 股関節鏡手術に役立つ股関節の解剖学	小林 直実 (横浜市立大学市民総合医療センター)
2) 超音波エコー, 股関節鏡手術に役立つ股関節の病理学	福島 健介 (北里大学)
3) 股関節疾患におけるエコー下インターベンション	山崎 琢磨 (呉医療センター)
10:10~11:10 共通講義 座長：加谷 光規 (加谷整形外科スポーツクリニック)	
1) 股関節疾患に対する股関節鏡手術の実際	宇都宮 啓 (東京スポーツ&整形外科クリニック)
2) 股関節鏡手術のトレーニングキット	大原 英嗣 (市立ひらかた病院)
3) 本邦におけるキャダパートレーニング	金治 有彦 (藤田医科大学)
11:45~15:30 実技講習 座長：内山 勝文 (北里大学)	

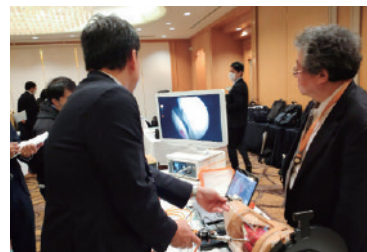
股関節鏡インストラクター

小林 直実 (横浜市立大学市民総合医療センター)
宇都宮 啓 (東京スポーツ&整形外科クリニック)
大原 英嗣 (市立ひらかた病院)
若間 仁司 (大阪医科薬科大学)

エコーインストラクター

崔 賢民 (横浜市立大学)
錦野 匠一 (錦野クリニック)
福島 健介 (北里大学)

*このページは敬称・肩書略としました。



第1回日本股関節学会 FAI 関節唇カダバーセミナー

金治 有彦 (藤田医科大学ばんだね病院整形外科)

股関節鏡視下手術の安全な手技の普及や教育を目的として、第1回FAI関節唇カダバーセミナーが2022年11月5日(土曜日)に藤田医科大学カダバーセミナーで開催されました。本セミナーの対象は股関節鏡視下手術のさらなる技術向上を目指す股関節外科医であり、日本股関節学会教育研修セミナーアドバンスコース(股関節鏡コース)の受講完了が必須条件でした。当日は杉山肇先生、兼氏歩先生、講師の内田宗志先生と齊藤昌愛先生をはじめ18名が参加しました。当日はまず講師の内田宗志先生と齊藤昌愛先生の手術動画を中心とした講義があり、その後にかダバー実習が行われました。カダバー実習では、参加者が股関節鏡を股関節内に挿入して関節唇縫合の手技を体験したうえでCam切除まで行い、関節包縫合の技術を体験することができました。その結果アンケート調査では参加者の満足度は非常に高いものでした。

第2回FAI関節唇カダバーセミナーは藤田医科大学カダバーセミナーで2023年11月10日と11日に開催予定であり、10日に二人の講師からの講義が行われ、11日にカダバー実習を実施する予定です。今年も若手医師にとって有意義なカダバー実習となるように企画していきたいと考えています。

参加メンバー

杉山 肇 (神奈川県リハビリテーション病院)

兼氏 歩 (金沢医科大学整形外科)

金治 有彦 (藤田医科大学ばんだね病院整形外科)

講師 内田 宗志 (産業医科大学若松病院)

齊藤 昌愛 (北水会記念病院)

眞舘 敦史 (東京都立多摩総合医療センター)

参加者 吉谷 純哉 (済生会高岡病院)

飯田 浩貴 (名古屋大学整形外科)

佐竹 美彦 (国際医療福祉大学病院)

大矢 昭仁 (慶應義塾大学)

藤江 厚廣 (慶應義塾大学)

石田 雅史 (京都府立医科大学)

原 大介 (九州大学)

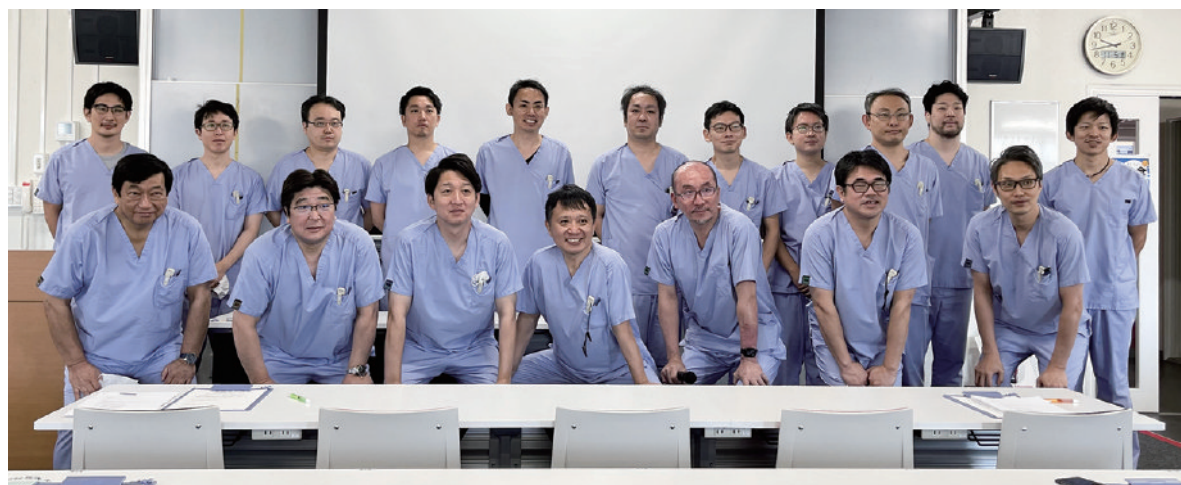
見学者 坂井 宏章 (名古屋市立大学)

吉川 寿一 (佐野厚生病院)

橋 哲也 (獨協埼玉医療センター)

松下 洋平 (神奈川県リハビリテーション病院)

梅津 太郎 (済生会中央病院)



第9回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内 (ベーシックコース)

日本股関節学会
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日時：2023年10月26日（木曜日） 10:25～15:05

会場：ヒルトン福岡シーホーク
(〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3 Tel.092-844-8111)

参加費：12,000円

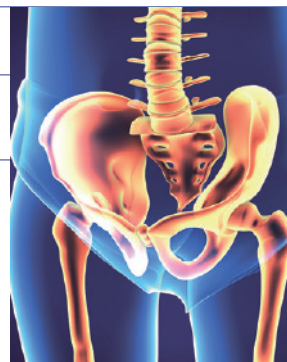
参加数：150名

単位：日本整形外科学会教育研修単位が認められております。

各セッション1単位、受講単位は1日4単位まで取得可能です。

現地参加者の単位受講料は無料です。

※セミナー現地開催終了後オンデマンド配信します。(単位受講有料)



参加方法：第50回日本股関節学会学術集会ページより参加登録してください。

<https://www.congre.co.jp/hip50/index.html>

プログラム

10:25～10:30	開会挨拶 理事長挨拶	高木 理彰 (教育研修セミナー 担当理事) 菅野 信彦 (日本股関節学会 理事長)
10:30～11:30	I 骨粗鬆症 / 股関節外疾患 モデレーター 馬庭 壮吉	
	1) 股関節障害：治療に役立つ骨代謝、骨質の理解	斎藤 充 (東京慈恵会医科大学整形外科)
	2) 股関節外疾患の診断と治療	藤井 昌 (市立秋田総合病院)
11:30～11:40	休憩	
11:40～12:40	II 股関節周術期の対処 モデレーター 上島 圭一郎	
	1) 股関節周術期感染予防	岩切 健太郎 (白庭病院)
	2) 股関節周術期静脈血栓塞栓症の対処法	高平 尚伸 (北里大学)
12:40～12:50	休憩	
12:50～13:50	III 小児股関節 モデレーター 佐々木 幹	
	1) 骨系統疾患、麻痺性疾患の股関節障害	鬼頭 浩史 (あいち小児保健医療総合センター)
	2) DDHの乳児検診、早期治療	村上 玲子 (新潟大学医歯学総合病院)
13:50～14:00	休憩	
14:00～15:00	IV 手術 モデレーター 加谷 光規	
	1) セメント人工股関節全置換術の匠	飯田 哲 (松戸整形外科病院)
	2) セメントレス人工股関節全置換術の匠	大谷 卓也 (東京慈恵会医科大学付属第三病院)
15:00～15:05	閉会挨拶	高木 理彰 (教育研修セミナー 担当理事)



第33回大正 Award 最優秀賞・優秀賞

第49回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。



最優秀賞

論文名

機能的骨盤傾斜が寛骨臼移動術後の 股関節接触圧力に与える影響



北村 健二

九州大学整形外科
助教

1 受賞した研究活動について教えてください。

臥位や立位などの機能的骨盤傾斜が寛骨臼移動術後の股関節接触圧力に与える影響について報告しました。

2 受賞後の感想をお聞かせください。

股関節外科医として目標としていた名誉ある賞を頂き、大変うれしく、光栄に思います。また、日頃よりご指導頂いております中島康晴教授、藤井政徳先生をはじめ、股関節グループの先生方に深謝致します。

3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

日頃よりご指導頂いております中島康晴教授、藤井政徳先生をはじめ、股関節グループの先生方や同門の先生方にお祝いの言葉を頂きました。

4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

臨床に役立つ研究の重要性を再認識させて頂きました。この賞に恥じない股関節外科医になれるように今後も精進したいと思います。

5 今後の展望についてお聞かせください。

日常診療の中での疑問を解決させるような研究を今後も行っていきたいと思います。また、日本股関節学会および九州大学整形外科に少しでも貢献していきたいと思えます。今後もよろしくお願い致します。

33th

優秀賞

論文名

AMISアプローチTHAにおける ラーニングカーブの検討



三浦 道明

成田赤十字病院整形外科
医長



1 受賞した研究活動について教えてください。

AMIS アプローチには、関節包内操作、後方関節包（坐骨大腿靭帯）の温存、legpositioner・術中透視の使用といった特徴があり、従来のDAAよりもさらに低侵襲で正確なインプラント設置が期待されます。

私は現在の施設に赴任した2018年から取り組んでおり、今回の研究はAMISアプローチ導入後のTHA連続100症例のラーニングカーブについてまとめたものです。

2 受賞後の感想をお聞かせください。

大学院卒業後に自分のアイディアで書いた初めての臨床論文で、突然の受賞の知らせにただただ驚き、しばらく実感がありませんでした。しかし授賞式後からは徐々に、新たなアプローチ導入の苦勞と日々の地道な積み重ねをご評価いただけたことへの喜びがこみ上げてきました。

3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

授賞式には多くの同門股関節グループの先生方が直接足を運んでくださり、沢山の祝福の言葉をいただきました。また、病院からはホームページ上でも祝ってもらい、4歳と2歳の娘はクラッカーで祝ってくれました。

4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

臨床現場での疑問点や不満点をそのままにせず、リサーチマインドを持って日々の診療に当たることの重要性を再認識しました。

5 今後の展望についてお聞かせください。

この受賞に満足することなく、引き続き学会発表・論文表に向けて精進してまいります。ありがとうございました。

日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

役職	氏名	所属・職名
理事長	菅野 伸彦	(医)協和会川西市立総合医療センター人工関節センター センター長
	稲葉 裕	横浜国立大学大学院医学研究科運動器病態学(整形外科) 教授
副理事長	山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授
	山本 卓明	福岡大学医学部整形外科 教授
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科 教授
	上島 圭一郎	京都地域医療学際研究所 がくさい病院整形外科 院長
	大川 孝浩	久留米大学医療センター整形外科 教授
	兼氏 歩	金沢医科大学整形外科学講座 教授
	斎藤 充	東京慈恵会医科大学整形外科学講座 教授
	坂井 孝司	山口大学大学院医学系研究科整形外科 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター整形外科 主任教授
	湊藤 啓広	三重大学医学部整形外科学教室 教授
	高尾 正樹	愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科学講座 教授
	高平 尚伸	北里大学医療衛生学部 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学大学院医学研究院整形外科学分野 教授
	中村 琢哉	富山西総合病院整形外科・股関節外科 科長
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科学教室 教授
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科学教室 教授
	監事	久保 俊一
杉山 肇		神奈川県リハビリテーション病院整形外科 院長
安永 裕司		広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
学術理事	内田 宗志	産業医科大学若松病院整形外科・スポーツ関節鏡センター 診療教授
	金治 有彦	藤田医科大学整形外科機能再建学 臨床教授
	加畑 多文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科整形外科 准教授
	加谷 光規	加谷整形外科スポーツクリニック 院長
	穴戸 孝明	東京医科大学病院整形外科 教授

名誉会員

東 博彦
飯田 寛和
石井 良章
糸満 盛憲
井村 慎一
岩田 久
遠藤 直人
川手 健次
小宮 節郎
進藤 裕幸
高岡 邦夫
田中 清介
鳥巢 岳彦
内藤 正俊
浜田 良機
稗田 寛
松永 隆信
松野 丈夫
松本 忠美
宮岡 英世
山田 治基

評議員

青田 恵郎
秋山 治彦
阿久津 みわ
浅海 浩二
阿部 功
安保 雅博
安藤 涉
飯田 哲
伊賀 敏朗
池内 昌彦
池村 聡
石堂 康弘
石橋 恭之
市堰 徹
伊藤 重治
伊藤 浩
伊藤 芳毅
稲葉 裕
今井 晋二
今井 教雄
今釜 崇
岩崎 倫政
岩瀬 敏樹
岩田 憲
上島 圭一郎
内田 宗志
内山 勝文
江川 洋史
粟 賢一
大川 孝浩
大谷 卓也
大橋 弘嗣
大原 英嗣
大山 正瑞
大灣 一郎

岡野 邦彦
岡野 徹
岡上 裕介
尾崎 敏文
尾崎 誠
加来 信広
楯野 良知
柁原 俊久
金治 有彦
兼氏 歩
加畑 多文
加谷 光規
苅田 達郎
川崎 雅史
河野 俊介
河原 郁生
河村 春生
木島 泰明
北川 由佳
木下 浩一
金光成
久米 慎一郎
桑沢 綾乃
古賀 大介
小久保 安朗
小助川 維摩
後藤 毅
後東 知宏
後藤 昌子
小林 千益
小林 直実
齊藤 正純
斎藤 充
三枝 康宏
坂井 孝司

坂本 武郎
佐々木 幹
佐藤 敦子
佐藤 貴久
宍戸 孝明
島 直子
神野 哲也
菅野 伸彦
鈴木 卓
湊藤 啓広
瀬川 裕子
関 泰輔
高尾 正樹
高木 理彰
高窪 祐弥
高橋 大介
高平 尚伸
武石 浩之
立岩 俊之
田中 歩
田中 栄
田中 隆治
谷口 隆哉
谷野 弘昌
種市 洋
崔 賢民
筑田 博隆
帖佐 悦男
土井田 稔
徳永 邦彦
富沢 一生
中島 康晴
仲宗根 哲
中田 活也
中原 一郎

中村 琢哉
中村 健
中村 知寿
中村 宣雄
中村 吉秀
中村 嘉宏
名越 智
西井 孝
西田 圭一郎
西野 衆文
西山 隆之
萩原 茂生
橋本 慎吾
長谷川 正裕
蜂谷 裕道
馬場 智規
濱井 敏
濱田 英敏
羽山 哲生
原 俊彦
原田 義忠
兵頭 晃
平川 和男
福島 健介
藤井 英紀
藤井 政徳
藤岡 幹浩
藤田 裕
藤原 勇輝
星野 裕信
堀内 忠一
前澤 克彦
前田 ゆき
間島 直彦
松下 功

松田 秀一
松峯 昭彦
馬庭 壮吉
丸山 正昭
馬渡 正明
三浦 陽子
三木 秀宣
三島 初
三谷 茂
宮坂 大
宮武 和正
宮西 圭太
宮本 健史
宗像 裕太郎
宗本 充
最上 敦彦
本村 悟朗
森島 達観
森田 充浩
諸橋 達
山口 亮介
山崎 琢磨
山田 晋
山村 在慶
山本 謙吾
山本 卓明
山本 豪明
山本 泰宏
脇阪 敦彦
渡邊 宣之
渡邊 弘之
渡會 恵介

学術評議員

青木 清
石田 雅史
内原 好信
宇都宮 啓
大鶴 任彦
大橋 寛憲
鎌田 浩史
川崎 展
後藤 公志
坂本 哲哉
山藤 崇
庄司 剛士
瀬戸口 啓夫
園畑 素樹
高田 亮平
田中 健之
千葉 大介
中村 順一
錦野 匠一
西脇 徹
林 申也
藤原 憲太
箕田 行秀
三村 朋大

日本股関節学会役員一覧②

新評議員・学術評議員よりご挨拶

新たに就任した評議員・学術評議員から会員の皆様へのメッセージです。

1. 正規所属名称・肩書 2. 専門分野 3. コメント

新
評議員

伊藤 重治 (いとう じゅうじ)

1 山形大学医学部整形外科学講座 学部講師

2 股関節外科、骨盤・下肢外傷

3 この度、伝統ある本学会の評議員に選出いただき大変光栄に存じます。股関節外科の魅力を若手医師にも発信し、本学会の発展のために尽力させていただきますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

新
評議員

楯野 良知 (かじの よしとも)

1 加賀市医療センター整形外科 医長

2 股関節外科、医療安全・質向上

3 2016年より学術評議員を務め、この度、評議員に就任させていただきました。大学病院勤務時代から整形外科医と医療安全の二足のわらじを履いております。学会のさらなる発展のため尽力できればと思ひます。

新
評議員

金光成 (きん みつなり)

1 錦秀会 阪和第二泉北病院 人工関節センター センター長

2 股関節外科、人工関節

3 この度は評議員に就任させて頂き大変光栄に存じます。学会の発展と後進の育成に微力ながらお役に立ちたいと願っています。股関節外科のより素晴らしい文化構築に寄与できるよう励んで参ります。ご指導お願ひします。

新
評議員

久米 慎一郎 (くめ しんいちろう)

1 久留米大学医療センター整形外科・関節外科センター 准教授

2 股関節・下肢疾患全般 (特に関節温存手術)

3 関節温存手術から人工股関節置換術に至る長期的に患者満足度の良い安全で質の高い手術の遂行に努めたいと思ひます。日本の股関節外科の発展に少しでも寄与できるように努力する次第です。よろしくお願ひいたします。

新
評議員

佐藤 敦子 (さとう あつこ)

1 日産厚生会玉川病院整形外科・股関節センター 部長

2 股関節外科

3 この度は日本股関節学会の評議員に選任いただきまして大変光栄に存じます。微力ながら本学会と日本の股関節外科の発展に尽くして参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

新
評議員

鈴木 卓 (すずき たかし)

1 帝京大学医学部附属病院 外傷センター 教授

2 股関節骨折、骨盤・寛骨臼骨折

3 評議員を拝命し、身の引き締まる思いで一杯です。これまでTHAや骨切り症例を数多く学ばせていただきました。また、私自身がFAIの関節鏡手術を受けており、今後ともこの分野で精進して参りたいと存じます。

新
評議員

崔 賢民 (ちえ ひょんみん)

1 横浜市立大学 整形外科 講師

2 股関節外科、小児整形外科、関節リウマチ、骨軟部感染症

3 この度、伝統ある本学会の評議員にご選出いただき、大変光栄に存じます。本学会を盛り上げながら、股関節疾患の病態解明、診断、治療の発展に貢献できるようにこれからも頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

新
評議員

中村 知寿 (なかむら ともひさ)

1 関西医科大学整形外科教室 講師

2 股関節外科、セメント人工股関節、ステム周囲骨折、再置換術、臼蓋形成術

3 伝統ある日本股関節学会の評議員に選任いただき光栄に存じます。先達から継承した技術・知見を後進に引き継いでいけるよう努力し、本学会の発展に微力ながら貢献できるよう尽力して参ります。ご指導よろしくお願ひします。

新
評議員

橋本 慎吾 (はしもと しんご)

1 はしもと整形外科リハビリクリニック 院長

2 股関節外科、スポーツ障害

3 この度、伝統ある本学会の評議員に選出頂き大変光栄に存じております。日本股関節学会の更なる発展に少しでも貢献できるよう努めて参ります。

新
評議員

濱井 敏 (はまい さとし)

- 九州大学大学院医工連携・健康長寿学講座 准教授
- 股関節外科、膝関節外科
- この度は、伝統ある本学会の評議員に選出頂き、大変光栄に存じます。本学会の発展に、股関節疾患で悩む患者さんのために、少しでも貢献できるよう尽力したいと存じます。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

新
評議員

濱田 英敏 (はまだ ひでとし)

- 大阪大学大学院医学系研究科 運動器医工学治療学講座 准教授
- 股関節外科
- 評議員に任命頂き大変光栄です。股関節学の知見の継承とさらなる発展に尽力したいと存じます。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

新
評議員

羽山 哲生 (はやま てつお)

- 東京慈恵会医科大学整形外科 講座 講師・診療医長
- 股関節外科
- この度伝統ある日本股関節学会の評議員を拝命しました東京慈恵会医科大学の羽山哲生と申します。私はこれまで、慈恵医大本院で股関節診療班の一員として診療を続けて参りました。微力ではございますが、学会のさらなる発展に寄与できるよう精進していく所存です。どうぞよろしく願い申し上げます。

新
評議員

山口 亮介 (やまぐち りょうすけ)

- 九州大学病院リハビリテーション科 助教
- 小児股関節、股関節骨切り、リハビリテーション
- 伝統ある日本股関節学会の評議員を拝命し、大変光栄に存じます。特に専門である小児股関節疾患領域の面から、本会のさらなる発展に寄与すべく努めて参る所存です。今後ともよろしく願い申し上げます。

新
評議員

渡邊 宣之 (わたなべ のぶゆき)

- 公立陶生病院整形外科 部長
同中央リハビリテーション部 理学・作業療法担当部長
- 人工股関節、股関節鏡、成人股関節エコー
- この度は、歴史と伝統のある本学会の評議員を拝命し大変光栄に存じます。浅学非才の身ではございますが、学会の発展に貢献出来よう微力を尽くしますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。



新学術
評議員

宇都宮 啓 (うつのみや はじめ)

- 東京スポーツ&整形外科クリニック
- 股関節外科、股関節鏡手術、スポーツ医学
- この度、学術評議員を拝命し大変光栄に存じます。微力ながら本学会の発展のために尽力いたします。何卒ご指導の程よろしく願い申し上げます。

新学術
評議員

川崎 展 (かわさき まこと)

- 産業医科大学病院人工関節センター長・准教授
- 人工関節(股・膝)、股関節外科、膝関節外科
- 伝統ある日本股関節学会の評議員に選出頂き大変光栄に存じます。微力ながら本学会および人工関節分野での発展に尽力したいと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

新学術
評議員

錦野 匠一 (にしきの しょういち)

- 錦野クリニック 整形外科
- 関節外科、股関節鏡、スポーツ整形外科
- 本学会の学術評議員を拝命し大変光栄に存じます。微力ではございますが、本学会の発展ならびに股関節疾患の診断・治療の発展に貢献できるよう尽力させて頂く所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

入会案内

日本股関節学会
ニュースレター

■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者） 入会当該年度 みの登録 5,000 円

入会手続き



ご入会を希望される方は、ホームページよりオンラインによる入会申し込み、もしくは申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。

1. オンラインによる登録

学会ホームページ「入会のご案内」より所要事項を入力の上、入力内容を確認画面で確認してから送信してください。
登録フォームに入力されたメールアドレスに登録受付メールが届きますので、メール本文に記載されている年会費を指定口座にお振り込みください。クレジットカードでのお支払いもできます。

2. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いしております。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度 みの登録となります。
例：第 50 回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第 50 巻に投稿の場合、当該年度（2023 年度：2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日）のみの登録となります。
- 本会の会計年度は、9 月 1 日～翌年 8 月 31 日です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

3. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1 ヶ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

4. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 ▶ HP より PDF ダウンロード
賛助会員 ▶ HP より PDF ダウンロード

5. 年会費自動振込の申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印の上、下記申込先まで郵送してください。
* 入会初年度は、年会費請求書（払込用紙）にて送金手続きをお願いします。自動振込の取扱いは次年度からの適用となります。
* 届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。
自動振込用紙 ▶ HP よりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
TEL ▶ 03-6267-4550 FAX ▶ 03-6267-4555
E-Mail ▶ jhs@mynavi.jp
URL ▶ <http://hip-society.jp/>

編集後記

7月に入って各地で豪雨や35度を超える気温が続き「異常気象」が「新しい日常」となりつつあるなか、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度の日本股関節学会ニュースレター第9号をお届けいたします。

長く続いた新型コロナウイルス感染症の猛威が徐々に落ち着きを見せ始めた昨年の10月、晩秋のさわやかな空気につつまれた山形にて高木理彰会長の指揮のもと第49回日本股関節学会が開催されました。1600名を超える参加者が山形に集い、「嚙矢濫觴」をテーマに股関節学の基礎から最先端の治療まで多彩な内容で活発な議論が交わされました。本号では学会開催のご苦勞などについて高木会長よりご報告いただきました。

また本年10月には中島康晴会長のもと第50回日本股関節学会が福岡にて開催されます。「股関節道」という壮大なテーマのもとに幅広く股関節学を学び議論する場となること、心より楽しみにしております。

大変な人気となっている第2回骨切りセミナー開催のご報告を兼氏歩先生から、またキャグバーを用いて実践的な学びの場となった第1回FAI関節唇セミナー開催のご報告を金治有彦先生からいただきありがとうございます。次回以降も参加希望が殺到することが予想されますが、ご興味のある先生方は積極的にご参加いただきたいと思います。

第4回教育研修セミナーアドバンスコースの開催報告も上島圭一郎先生からいただきました。筆者も参加させていただいたのですが、エコーとドライモデルを用いた股関節鏡の講義を、座学と実技で実践的に学ぶことができ大変有意義でした。講師の先生方の熱意溢れるご指導のもと、参加者の先生方がみな大変熱心に勉強されていたのが印象的でした。

そのほか名誉ある第33回大正Award受賞者の先生方から喜びのコメントをいただきました。本当におめでとうございます。ますますのご活躍を祈念いたします。

昨年、長らく本学会に多大なご尽力をいただいていた杉山肇先生が日本股関節学会理事長を勇退されました。今年より菅野伸彦新理事長のもと新たなメンバーを加えて本学会が再始動いたしました。日本の股関節学の更なる発展に向けて、会員の皆様に役立つ情報満載のニュースレターを発刊していきたいと思っております。会員の皆様からも忌憚ないご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

(三浦 陽子)

日本股関節学会ニュースレター第9号 2023年9月号

発行元・お問い合わせ先

一般社団法人日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル
(株) 毎日学術フォーラム内

TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

E-Mail : jhs@mynavi.jp

URL:<http://hip-society.jp>